

# 社会の中の科学技術

久木田水生

2015年度後期集中講義

この授業について

# 授業の概要

- 本講義では、科学と技術の社会とのかかわりをめぐって、これまでにおきたさまざまな問題を例としてとりながら、科学技術社会論という学問分野の考え方を紹介し、この分野の考え方が上記のような問題について分析する上でどのように役立つのかを論じる。

# 授業の目的

- 現在の科学技術は極めて複雑化しており，それらについて正しく理解することは専門家以外には困難である。
- しかし私たちは自分たちが科学技術にどのような影響を受けているのか，その利用に関してどのような選択肢があるのか，どうすれば合理的な選択をすることができるのかを知る必要がある。
- そこでこの講義では科学技術について正しく考え，議論し，意思決定するための能力の向上を目指す。

# 授業で扱うトピック（予定）

- 科学技術と社会構造：科学技術は社会構造（ある社会の内部の構造，および異なる社会の間との関係と相互作用）にどのような影響を与えてきたか，あるいは与えているか。逆に社会のあり方はどのように科学技術の発展に影響を与えてきたか，あるいは与えているか。
- 科学技術と精神文化：科学技術の発展がどのように私たちの認識を拡張し，新しい世界観・人間観を提供することに貢献してきたか。

# 授業で扱うトピック（予定）

- 科学技術の評価：科学技術の正と負の両側面をどう評価して、どのような場合に特定の科学技術の発展を推進あるいは放棄するべきか。
- 科学者と技術者の社会的責任：科学者と技術者は社会に対してどのような責任を負っているのか、またそれにはどのような根拠があるのか。
- 日本の科学技術：日本の科学技術をめぐる文化にはどのような特徴があるか。また日本の科学技術に特有の問題は何か。

# 授業の方法

- 講義とディスカッションによる。受講生は講義を聴くだけでなく、意見や疑問を表明するなど積極的な参加が求められる。また毎回の授業の最後には、その日の授業を受けて考えたことや疑問に思ったことなどを書いて提出してもらおう。
- 提出された質問・コメントについては、次回の授業において取りあげ、返答・解説をする（ただしすべての質問・コメントに応えるわけではない）。
- 授業中、何度か小テストをする。

# 成績の評価

- 小テスト50%, レポート50%
- 小テストを半分未満しか提出していない, あるいはレポートを提出していない場合は欠席扱い.
- レポートの締め切りは1月末. 詳しくは別途知らせる.

# 自己紹介

- 久木田 水生（くきた みなお）
- 専門は言語哲学、技術哲学、技術倫理。テクノロジーと人間、社会の間の相互作用に興味がある。近年は特にロボット技術に焦点を当てている。
- メールアドレス： [minao.kukita@is.nagoya-u.ac.jp](mailto:minao.kukita@is.nagoya-u.ac.jp)
- ウェブページ： <http://www.info.human.nagoya-u.ac.jp/lab/phil/kukita/>

# 略歴

- 学部：京都大学文学部
- 大学院：京都大学大学院文学研究科
- 学位論文：「ラッセルの論理主義」
- 指導教官：伊藤邦武
- 職歴：神戸大学、龍谷大学、立命館大学、近畿大学、京都大学、関西学院大学で非常勤講師（論理学、哲学、アカデミックライティング、クリシン）、大阪大学、京都大学で非常勤研究員を経て、2014年4月より名古屋大学情報科学研究科准教授に就任。

# 研究テーマ

人間相互の信頼関係を促進するにはどうすればよいか？

言語哲学

情報リテラシー

技術哲学・技術倫理

クリティカルシンキング

情報倫理

テクノロジー

人間の認識・行動

社会慣習・制度

テクノロジー、人間、社会の間の相互作用に焦点をあてる

# 扱っている個別的なトピック

- 数学の哲学、論理学の哲学
- クリティカルシンキング
- 言語哲学
- 人工知能・ロボットの哲学
- 技術倫理、特にロボット倫理学
- デジタル・ヒューマニティーズ



執筆協力



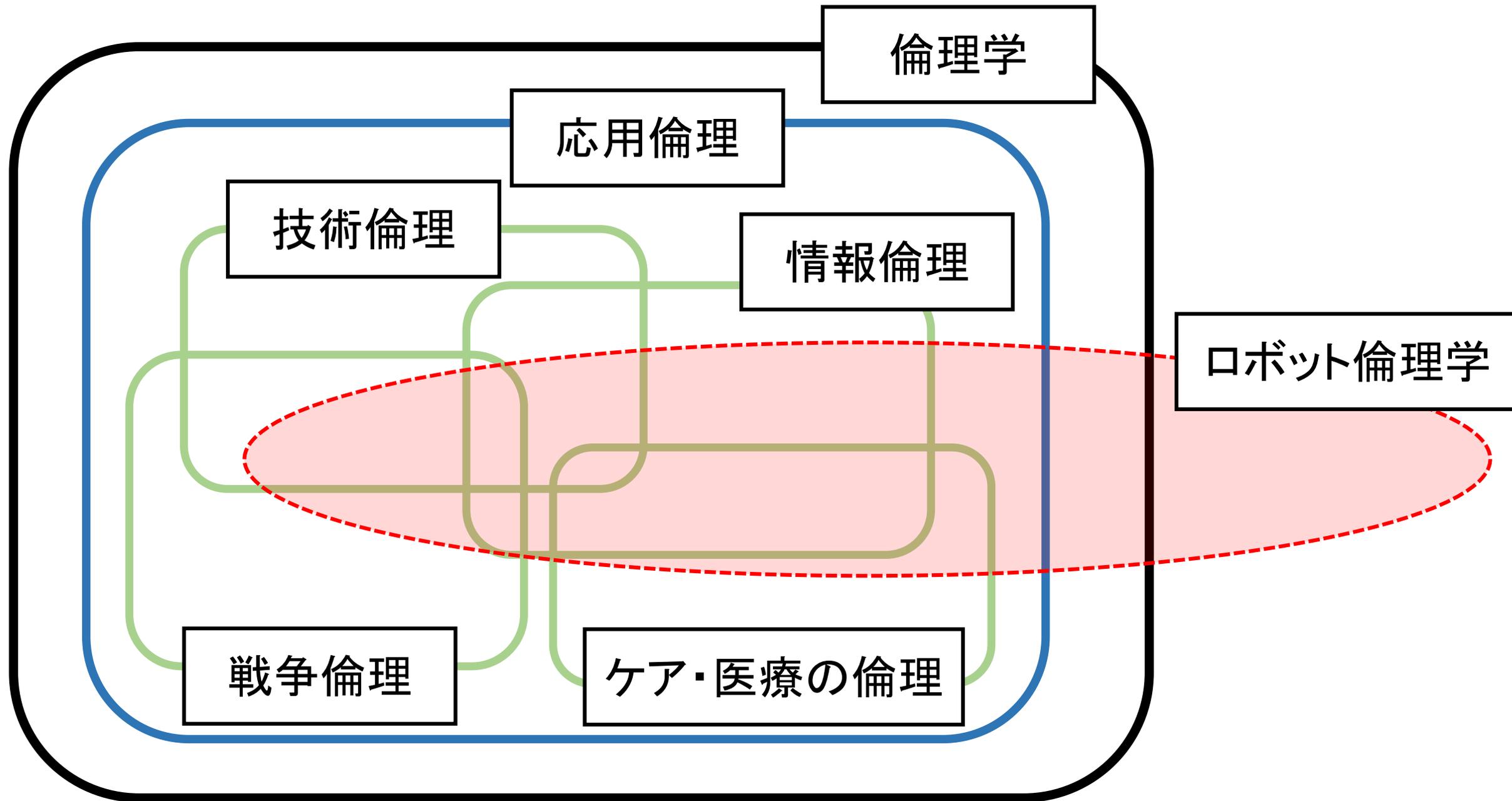
共著



訳と解説  
共著



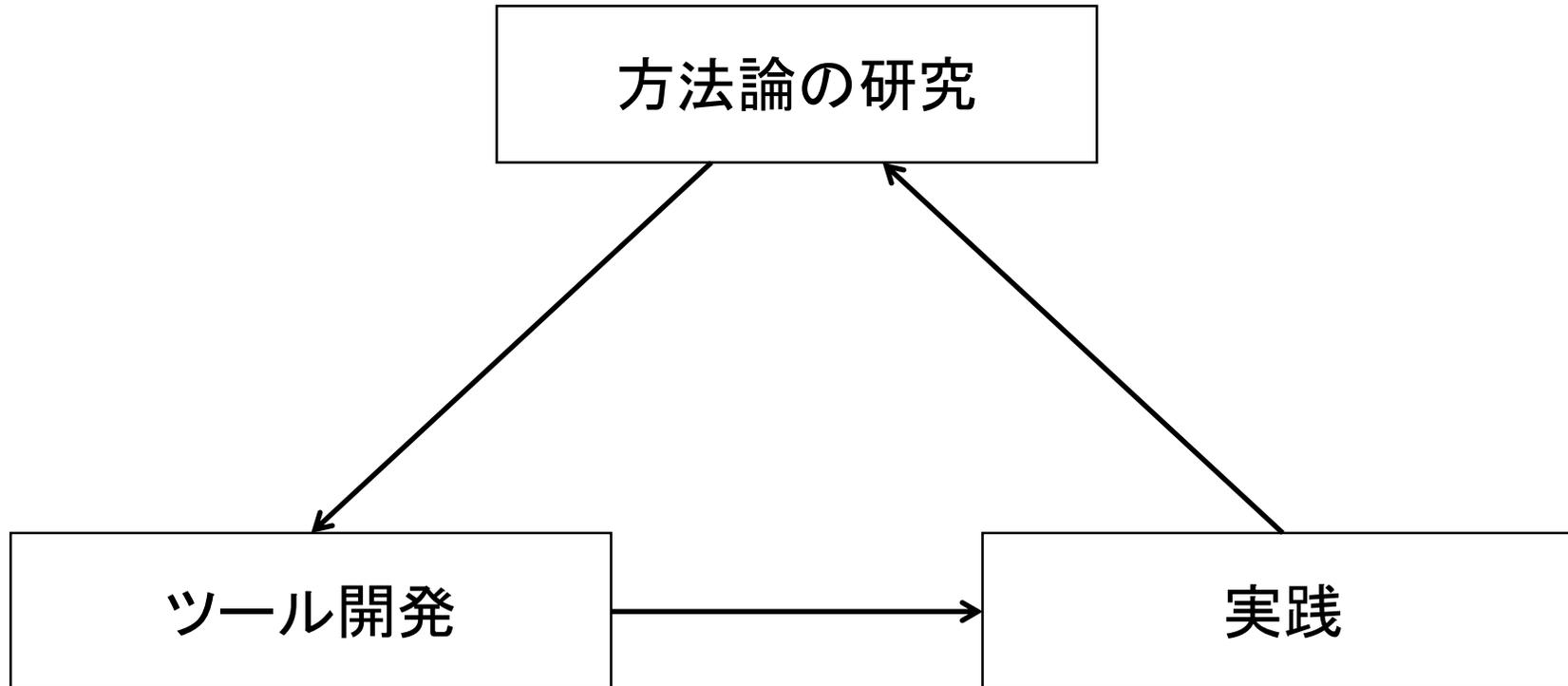
訳と解説  
共著



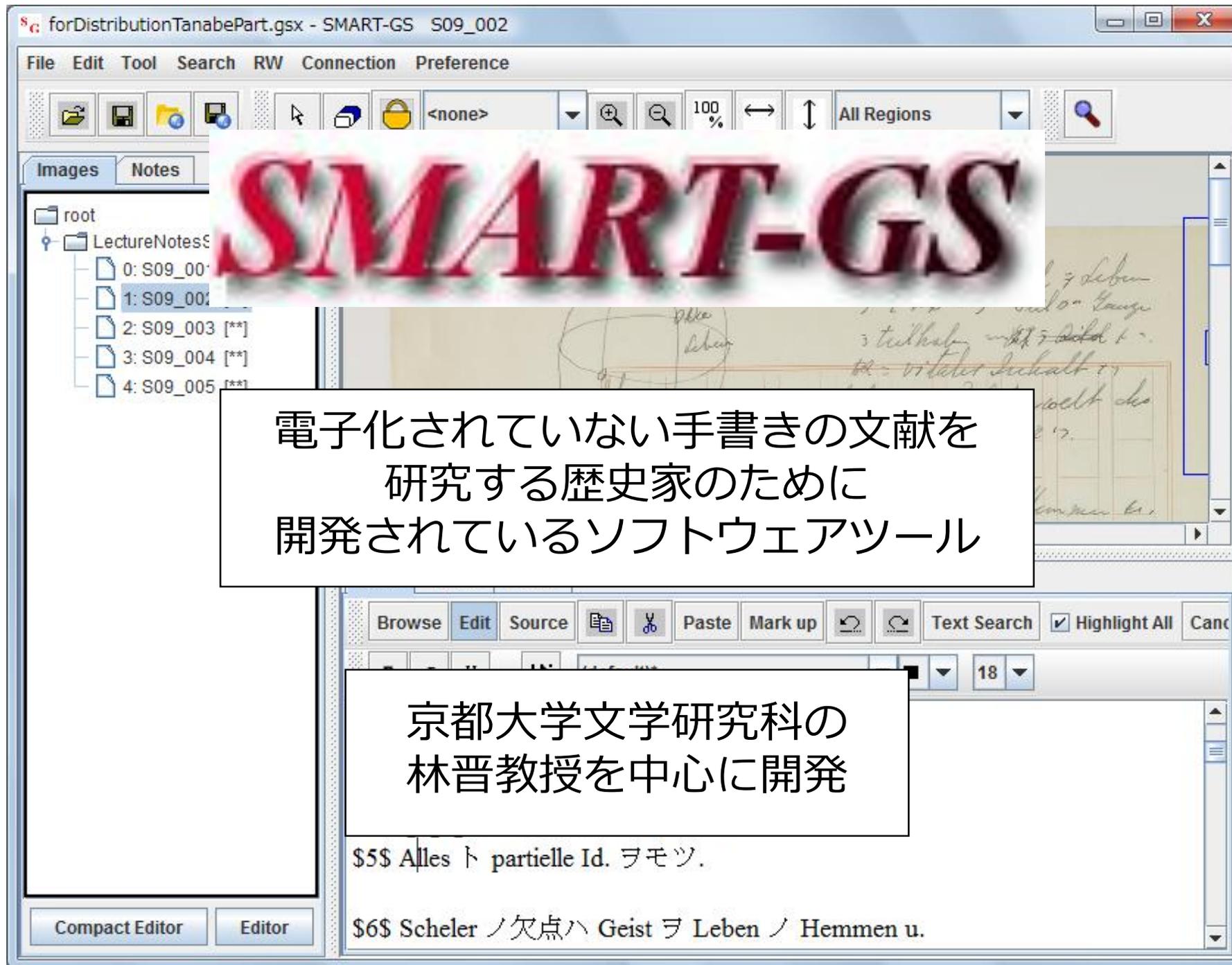
# デジタル・ヒューマニティーズ（人文情報学）

- ICT技術を人文科学の研究・教育に活用するための方法の研究，開発，実践.

# Cf. Digital Humanities の基本図式



Cf. 永崎研宣、「人文学はデジタル技術に何を期待しうるか」  
京都大学白眉センター，応用哲学・倫理学教育研究センター主催  
セミナー「デジタル・ヒューマニティーズの現在」，2012年．



# SMART-GS

電子化されていない手書きの文献を  
研究する歴史家のために  
開発されているソフトウェアツール

京都大学文学研究科の  
林晋教授を中心に開発